

かぬま民話めぐり

鹿沼民話の会



その六(最終回) 「酒の泉」(酒野谷)

長者が、まじないを唱えると八つの池の水が、みんな酒に変わったと。

昔な、酒野谷は坂野谷といったと。

ある日、長者の家の作男がきれいな水の湧く八つの池へ行くと二人の天狗が池のほとりで酒盛りをしていて、酒がなくなるとまじない唱えて池の水をくんで、酒盛りを続けたと。男に見られた天狗は「他言無用」と飛び去ったという。男が帰ったら三年もたつていたと。

それからの男は、池の水を酒に変えて飲んで寝てばかりでな。それを知った長者はまじないを教えるよう男にせまったと。



▲酒野谷にある酒の泉の舞台といわれる場所。今も水が湧き出ている。

男が恐る恐る長者にまじないの言葉をしやべった途端、どっからかゴーツと風が吹いてな。男は鷹の爪のようなものにつかまえてどどこかへ連れ去られてしまったと。

長者が八つの池へ行行って教わったまじないを唱えと、八つの池の水はみんな酒に変わったと。この事が村中に広まって坂野谷は酒野谷といわれるようになったと。

ただどな、長者が八つの池の水を酒に変えて売ろうとしたときから、二度と池の水が酒に変わることはなくなつてしまったと。

(小杉義雄「鹿沼のむかし話」より再話)

おしまい

市公式YouTube「かぬまチャンネル」では、切り絵による「鹿沼の民話」の動画を公開しています。ぜひご覧ください。



朝ごとに招餌おきえの甘蕉バナナを食みに来る鶴一羽声高に鳴く

万町 中又 令子

私の歩に合わせ歩いてくる人頼りて一日の旅は終りぬ

西沢町 竹沢 敏子

おだやかに働く義母の夢覚めて涙ながるる我は病みおり

千渡 竹澤 雄子

遠く遠く歩み来し日日振りかえる初日輝く空に向かい

西茂呂 太田 孝子

家々で鬼は外へとさけびたる幼き日の声今は聞こえず

富岡 佐藤富一郎

市民川柳

白石 洋 選

道端の蠟梅咲いて立ち止まり

村井町 黒田千代子

おしゃれして草のみどりが春告げる

村井町 野島 幸子

雛壇にわが娘三人官女かな

加園 大貫 里子

人生のはかなさを知る計報欄

入粟野 小島 哲夫

目指す旗届かぬグランドゴルフかな

中栗野 大塚 初江

節電と言いつつ朝まで寝るコタツ

上日向 畠山 茂

物価高オール電化で火の車

酒野谷 杉山 進

優等生卵もついに腰を上げ

塩山町 森野 静雄

県議会議員選挙

私たちの座談会

庁舎整備だより

予算

古澤育英会

フラッシュ

市民のひろば

健康

お知らせ

木版画大賞

※選出の際に、選者による加筆・修正が入る場合があります。